



ADRC Highlights

Asian Disaster Reduction Center Monthly News

Vol. 334
January
2021

トピックス

謹賀新年

アジア防災センター
センター長 濱田政則

関係機関との協力推進

¶ 第2回オンライン津波
セミナー開催

¶ 宇宙利用技術の創出の
ための取り組み

メンバー国との協力推進

(ACDR2020)メンバー国に
よるレポートの紹介：ベト
ナム

Asian Disaster Reduction Center アジア防災センター

〒651-0073
神戸市中央区脇浜海岸通
1-5-2 東館5F

Tel: 078-262-5540
Fax: 078-262-5546
editor@adrc.asia
https://www.adrc.asia

© ADRC 2021

謹賀新年

旧年中は、アジア防災センター（ADRC）の活動に御支援と御協力を賜りました。改めて厚く御礼申し上げます。

世界中に新型コロナウイルスによる感染症が蔓延している未曾有の災害の中で、2021年を迎えることとなりました。一昨年12月に、はじめて感染が確認されて以来、瞬く間に感染が拡大し、現時点でも収束の目途は立っていません。

1月末で、約1億人の人々が感染し、210万人以上の方が命を落としています。全世界が同時期に同一の災害に襲われたのは世界史上初めての経験となっています。ようやく、ワクチンが開発され、試験治療を経て、いくつかの国では接種が開始されていますが、ワクチンによってこの世界的災禍を克服できるかどうか未だ不明な状況です。

このような困難な中で、2020年のアジア防災会議（ACDR）はWebサイトを利用しての開催が余儀ない状況となりました。メンバー国間の時差の問題や、各国での通信機器の整備などに多くの課題がありましたが、参加国の協力により、所定の成果を挙げることができました。各国の関係者に深甚なる謝意を表します。

Webサイトによるアジア防災会議では、増大する災害リスク軽減とコロナ禍における防災対策を主要議題として、予め加盟国と事前討議を重ねることにより、従来からの一同に会する会議とは異なった深い討議が可能となりました。今後も、Web会議方式も活用してアジア防災会議を開催し、加盟国の連携をより強固にしたいと考えております。

地震・津波災害に加え、近年地球規模の気候変動に起因していると考えられる豪雨・暴風雨・旱魃などの気象災害が多発しており、この傾向は今後一層激化するものと予想されます。

世界の地震・津波・風水害など災害の約70%はアジア諸国と地域で発生しています。アジア防災センターは、31の加盟国の連携と協力のハブの役割をこれからも果たし、アジアでの災害を軽減するため最大限の努力を尽くす所存です。

加盟国政府並びに関係者の一層の御支援と御協力をお願い致します。



アジア防災センター
センター長 濱田 政則

●関係機関との協力推進

第2回オンライン津波セミナー開催

第2回目のオンライン津波セミナーが、2020年12月22日(火)に開催されました。

始めに、ADRC中川雅章所長より、今回のセミナーは2004年12月26日にインド洋津波が発生したことに因み、インドネシアにおける最新の津波防災について報告いただくとの紹介がありました。

そして、アトマジヤヤジョグジャカルタ大学のカエルンニサ准教授から、「インドネシアにおける津波防災啓発」と題した講演が行われました。まず、1990年から2020年までにインドネシアで発生した19件の大規模な津波を振り返り、中でもマグニチュード9、死者数166,000人以上を記録した2004年のインド洋津波は、アチェ州とニアス州に壊滅的な被害を与えたと述べました。津波の後には、構造物プロジェクト(津波避難ビル、防波堤、港、公園、博物館など)と非構造物プロジェクト(教育、研修、訓練)から成る復興プロジェクトが両州で実施されました。

更に、インドネシアの人々の津波に対する意識について、100人を対象に実施した調査結果が紹介されました。

- ・回答者の大半は、津波が発生しやすい地域に住んでいるかどうかを知っており、その危険性の評価は、経験、過去の津波に関する知識、政府のホームページや地元のニュースに関する情報に基づいている。
- ・回答者の大半は、津波に関連する教育や訓練を受けており、それにより、意識レベル1～5のスケールでいうと、レベル4まで上昇した。
- ・回答者の大半は、ソーシャルメディアと避難訓練が意識レベルを高めるための最も効果的な手段だと回答している。

しかし、検証のためには、津波が発生しやすい地域の記録や既存のハザードマップなどの事実データと調査回答を相互分析することが不可欠であると指摘しました。その結果、津波の実際の経験と現在の知識と行動との間に相関関係がないことから、教育プログラムには定期的な研修と訓練を実施すべきであると提案しました。

第3回津波セミナーは、2021年1月26日(火)に開催されました。ご参加いただきました皆様には厚く御礼申し上げます。詳細につきましては、来月号の誌面で紹介させていただきます。



第2回オンライン津波セミナーの様子

宇宙利用技術の創出のための取り組み

ADRCでは、防災科学技術研究所、株式会社アクセルスペースとともに、山口大学を主管実施機関として、衛星の画像解析に人工知能を活用するための共通のデータ基盤の開発に着手しました。

近年、様々な衛星による画像を利用することができる環境が国内外で整いつつあります。しかし複数の衛星による画像を横断的に利用して解析を行うには、衛星に搭載されたセンサー毎の特徴、衛星毎に異なるバンドの波長域、大気の状態による見え方の違いなどがあり、これらを補正

続き

する必要があります。今回の取り組みでは、複数の衛星画像を人工知能（AI）を活用して解析を行うためのキャリブレーション（衛星で撮像されたデータの較正のこと）手法の開発を行います。

この取り組みは、センチネルアジアに参加している海外の宇宙機関の協力をいただきながら進めていく予定です。なお、この事業は、文部科学省の資金的な支援をいただき、2020年度から3ヶ年の予定で実施するものです。

●メンバー国との協力推進

(ACDR2020) メンバー国によるレポートの紹介：ベトナム

今回は、ACDR2020のホームページに寄稿されたアブストラクトの中から、テーマ1の「防災対策と激化する災害リスクへの挑戦」に関するベトナムのレポートの抜粋を紹介します。

ベトナムにおける自然災害と災害リスク管理（洪水と鉄砲水）

ベトナムでは、近年、目覚ましい経済成長と都市化が続いています。そのため、自然災害のリスクの高い地域で、人口増加や財産蓄積が発生し、毎年国中で様々な自然災害による被害を受けています。ベトナムでは水関連の自然災害が最も発生しやすく、2007年から2017年における自然災害による死者・行方不明者の約80%は洪水や暴風によるもので、10%は鉄砲水や地すべりに起因しています。ベトナム北部の山岳地域では、豪雨や暴風が、鉄砲水や地すべりを引き起こし、人々の生命や財産に被害を与えています。このような厳しい生活環境や土地の条件により、人々は多くの困難に直面し、鉄砲水や地すべりといった災害の高いリスクにさらされています。2020年10月に、長引く降雨と、度重なる台風の襲来により、深刻な洪水、鉄砲水、地すべりが、ベトナム中部で発生しました。これにより、243人が死亡・行方不明となり、経済被害額はおよそ29兆ベトナムドン（約13億米ドル）と推定されています。計画策定と防災プログラム実施における能力を強化するために、ベトナム災害管理総局（VNDMA）はベトナムにおける災害リスク管理に責務を負う一方で、関連省庁や機関の調整役を担っています。本ペーパー（full paperについては、ACDR2020のホームページを参照）では、ベトナムにおける自然災害の概観や洪水、鉄砲水、地すべりの特性について紹介します。そして、2020年10月の洪水の経験により得られた、政策やプログラム、そして乗り越えるべき課題について議論します。

本レポートの全文、及びフルレポートはACDR2020のホームページ（<https://acdr.adrc.asia/>）で公開されています。

問い合わせ・配信申し込み

このニュースレターに対するお問い合わせ、またEメールによる配信をご希望の方は editor@adrc.asia までEメールをお寄せください。